

7 社会人基礎力育成評価システムの の普及・推進活動

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進と評価活動

本事業の実施にあたり、京都産業大学では社会人基礎力を地域の経済産業界に広げ、人材の育成と活用に寄与貢献することを目的として、日頃人材育成に携わる専門家に委嘱して「社会人基礎力普及推進委員会」を設置し、社会人基礎力の普及推進に努めてきた。

平成 21 年度は京都放送大阪支社長 佐合氏に新たにご参加いただき 5 人体制となった。また佐合氏を除き、残りの 4 人の普及推進委員に適性科学研究所研究員の岡野一氏を迎え入れて、本事業の第三者評価委員会を構成し平成 21 年度の活動を行った。

(体制については、P 17. 「京都産業大学モデル事業実施体制図」を参照)

< 社会人基礎力普及推進委員会委員 >

原 正紀 氏 ((株) クオリティ・オブ・ライフ 代表取締役
ジョブカフェ・サポートセンター代表)
夏目 孝吉 氏 ((株) 文化放送キャリアパートナーズ 就職情報研究所長)
佐藤 重紀 氏 (京都商工会議所 理事・会員部長)
西村 善和 氏 (京都経営者協会 会員部)
佐合 真 氏 ((株) 京都放送 大阪支社長)

(1) 社会人基礎力普及推進委員会の役割

① 地元京都への普及活動及び広報

京都商工会議所や京都経営者協会の会員企業への広報や、本事業から生まれたプログラムの新入社員研修や人事担当者研修への応用による普及推進

② 全国への普及活動及び広報

全国単位で活動する委員の持つネットワークやメディア、講演会等を通じた普及推進。ラジオ放送等のメディアを活用しての一般に向けての発信。

(2) 社会人基礎力普及・推進のための活動記録

学内では、FD 活動を担当する本学教育エクセレンス支援センターと協力して、「平成 21 年度新規採用教員対象 FD ワークショップ」にてプログラムの紹介や教育手法を紹介し、社会人基礎力をテーマに研究会を開催、また授業公開を行い、授業の参観を呼びかけた。

また、大学の外では、普及委員と協力して京都商工会議所と共催で、新入社員を対象に「社会人基礎力養成セミナー」、京都経営者協会と共催で企業の人材育成担当者を対象に「社会人基礎力トレーナー養成セミナー」を開催。京都府商工労働観光部とは、若年者雇用を推進する「京都未来を担う人づくり推進事業」に参画し、「社会人基礎力育成をベースにしたプログラム」を実施して、多くの受講者を実際に就職まで繋げた。

ほか、学会での取組発表、学生の就職を担当する本学の進路センターと共催で、企業の人事担当者に集まっていた場で、「O/OCF-PBL」取組紹介や社会人基礎力の発信を行った。

平成 21 年度普及推進・研究活動一覧（京都産業大学キャリア教育研究開発センター）

プログラム名	共催団体・学内 部署	期間	場所	対象	参加 人数	その他
平成 21 年度新規採用教員対象 FD ワークショップ	京都産業大学教育エクス セレンス支援センター	4 月 3 日	学内	平成 21 年度新規採用教員	21 人	
社会人基礎力学内研究会(新規採用教員 FD ワ ークショップのフォローアップ)		4 月 8 日	学内	平成 21 年度新規採用教員	8 人	
社会人基礎力養成セミナー	京都商工会議所	4 月 21・22 日、5 月 19 日、6 月 23 日	京都商工会議所	商工会議所会員企業等 新入社員	21 人	
PBL 研究会 (京都産業大学 DAY IN 大阪)		7 月 25 日	アプローズタワー (大阪市北区)	課題提供企業・評価委員・経 済産業省・近畿経済産業局・ 本学 PBL スタッフ	24 人	
全国四系列教育会議第 26 回大会 四系列教育と社会人基礎力育成教育の接点と接 合を考えるー新しい教育のあり方を求めて 京都産業大学事例報告	四系列教育会議	8 月 8 日・9 日	桃山学院大学	全国大学教員	80～ 100 人	
京都産業大学社会人基礎力研究会 (ベネッセ共同)		8 月 24 日	ベネッセ コーポレーション	ベネッセ教育研究開発センタ ー・本学スタッフ	7 人	
社会人基礎力トレーナー養成セミナー	京都経営者協会(京都 労働局委託 若年者地 域連携事業)	9 月 15 日	京都テルサ	京都経営者協会会員 京都ジョブパーク企業応援団 登録企業の人材育成担当者	30 人	
京都未来を担う人づくり推進事業 「社会人基礎力育成をベースにしたプログラム」	京都府商工労働観光 部ものづくり振興課産学 公・新産業担当 京都未来を担う人づくり サポートセンター	9 月 1 日～ 2 月 26 日	ハートピア京都 キャンパスプラザ京都 学内	満 35 歳未満(平成 21 年 9 月 1 日現在)の求職者	16 人	
企業と大学の集い (京都産業大学 DAY IN 東京)	京都産業大学 進路センター	9 月 11 日	帝国ホテル東京	企業採用担当者他	108 人	
O/OCF-PBL 成果報告会授業公開	京都産業大学教育エクス セレンス支援センター	9 月 26 日	学内	学内教職員		学生による授業の 相互評価 アンケート
日本キャリアデザイン学会 PBL 教育研究報告	千葉商科大学	9 月 26 日・ 27 日				
社会人基礎力育成グランプリ 西日本大学内予選大会(1 次)		11 月 4 日	学内	学生・教員	5 チーム エントリー	ゼミ・ PBL チーム
社会人基礎力育成グランプリ 西日本大学内予選大会(2 次)		11 月 9 日	学内	学生・教員	2 チーム エントリー	ゼミ・ PBL チーム
企業と大学の集い (京都産業大学 DAY IN 京都) 企業の求める人材(社会人基礎力)育成の成果と 今後の展開について O/OCF-PBL 教育(事例紹介)	京都産業大学 進路センター	11 月 13 日	ホテルグランヴィア 京都	企業採用担当者他	128 人	
社会人基礎力向上のための大学教育プログラム 研究(全 4 回:4 回目プログラムを本学で開催)	日本能率協会	11 月 24 日	学内	全国大学のキャリアセンター、 教育開発センター、教務、 企画担当の教職員	12 人	
シラバス検討会		11 月・12 月	学内	シラバス表記についての検討 会		
O/OCF-PBL 授業公開	京都産業大学教育エクス セレンス支援センター	12 月 4 日	学内			
社会人基礎力育成グランプリ 2010 西日本予選大会	経済産業省	12 月 15 日	大阪・ グランキューブ大阪	一般	代表チ ーム参 加	
京都産業大学社会人基礎力研究会 (ベネッセ共同)		12 月 18 日	ベネッセ コーポレーション	ベネッセ教育研究開発センタ ー・本学スタッフ	7 人	
京都産業大学社会人基礎力研究会 (ベネッセ共同)		2 月 16 日	ベネッセ コーポレーション	ベネッセ教育研究開発センタ ー・本学スタッフ	6 人	
京都産業大学 O/OCF-PBL 成果報告会 「社会とつなぐ大学教育」		2 月 20 日	大阪商工会議所			
O/OCF-PBL 成果報告ラジオ放送(京都放 送)		2 月 28 日				
社会人基礎力育成グランプリ 2010 決勝大会	経済産業省	3 月 5 日	東京・有楽町 よみうりホール	一般	代表チ ーム参 加	

(3) 第三者評価委員会アンケート結果

就職や若年者雇用、若者メンタル面の測定などについて造詣の深い方を第三者評価委員に委嘱して、本事業の評価や実施に対する助言をいただいた。委員にはプログラムの授業参観や報告会に参加いただき、併せて評価委員会を開催した。なお、第三者評価委員会アンケートには普及推進委員の佐合氏にも協力依頼を行った。

＜社会人基礎力第三者評価委員会委員＞

原 正紀 氏 ((株) クオリティ・オブ・ライフ 代表取締役
ジョブカフェ・サポートセンター代表)
夏目 孝吉 氏 ((株) 文化放送キャリアパートナーズ 就職情報研究所長)
佐藤 重紀 氏 (京都商工会議所 理事・会員部長)
西村 善和 氏 (京都経営者協会 会員部)
岡野一 伸子 氏 (適性科学研究センター社長)

第1回(平成20年度)第三者評価委員会・普及推進委員会会議録

1. 日 時	平成21年3月19日(木) 15:00~18:30
2. 場 所	京都ガーデンパレス
3. 出席者	近畿経済産業局：産業人材政策課 志賀英晃氏 第三者評価委員：文化放送キャリアパートナーズ夏目孝吉氏 クオリティオブライフ 原正紀氏、 京都商工会議所 佐藤重紀氏 京都経営者協会 西村喜和氏 課題提供企業：小林工芸 小林祐子氏、日本IBM 浅沼良治氏、 タキイ種苗(高木氏) モリタ製作所(阪野氏) 本 学 側：若松正志、後藤文彦、中川正明、中尾憲司、木原麻子、 吉中三智子、西澤正行、林誠次、小野純三、久保田千雅子

4. 目 的 O／OCF－PBLの実施に関する共通認識と全スタッフの役割分担の確認

5. 内 容 キャリア教育研究開発センター長 若松正志教授及び近畿経済産業局 志賀英晃産業人材政策課長の挨拶の後、以下のとおり進められた。

(1) 平成20年度課題解決力実践・PBL教育の成果報告について

①成果報告書に基づく成果と課題の報告

後藤文彦キャリア教育研究開発センター運営委員長より、配付された成果報告書に基づき、本年度実施した「二段階方式実践的 PBL 型教育」の基本構造やカリキュラム体系、プログラムの実施体制等について説明がなされた。

②社員研修（人材育成）と PBL 教育について

キャリア教育研究開発センター中尾憲司コーオプスタッフより、社員研修と PBL 教育について次のとおり説明があった。

新入社員が研修を通じて、自ら考え、行動し、チームワークができる人材になることを目指して、社会人を対象とした「社会人基礎力養成講座」を開講する。講座は京都産業大学、京都商工会議所及び京都能率協会が主催者となり 4 回シリーズで展開される。当初の予想より多くの受講希望者があった。これに関して次の意見が出された。

- ・社会人基礎力を社会人に対して発信したのは本学が最初ではないか。
- ・ただ、現在は京都産業大学というドメスティックな形であるが、経済産業省が主催となると普遍的になり、受講希望者はもっと増えるのでは。

(2) 平成21年度課題解決力実践・O／OCF－PBL教育事業計画の実施について

中川正明キャリア教育研究開発センターコーオプスタッフから、平成 21 年度に展開する事業計画について、本学におけるキャリア形成支援教育の経緯と現況、キャリア形成支援教育の推進概要及び課題提供企業 4 社と課題（テーマ）について説明が行われた。

以上の説明後、意見交換が行われ、主なものは次のとおり。

- ・学生に対しては評価をするだけでなく、その後学生が次のアクションを起こせるよう、行動目標に落とし込む手助けが必要なのではないか。
- ・学生への評価後のフィードバックは重要だと考える。また、どういうフィードバックの場を持つのかということも大切。
- ・12の基礎力を企業にどうアピールするかが課題。例えばある力がどういう業務に使えるのかを関連付けて表現したり、どういうタイプの人はどの力をどう強化したらいいか、などをまとめると企業側も理解が深まるだろう。
- ・PBL授業を展開する上で、1年生にはここまで、2年・3年生にはここまでを身につけるというレベル設定があると目標となり取組みやすいのではないかと。
- ・今度取組まれることになっている合宿は受講生のモチベーションを上げたりコミュニケーションを促進する上でも大切と思う。
- ・学内発表、ラジオの取組み、グランプリなどで学生自身が主体的に取組むというのは

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動

いい方法だと思う。

- ・大学での専門知識と課題解決をどう結びつけるかという点を工夫してほしい。
- ・PBL2・3が9月に終わったあと、グランプリまでの間どうモチベーションを維持するか検討してほしい。

以上の経緯で第一部を終了し、会場移動の後、第二部の交流懇談会が行なわれた。

第2回第三者評価委員会・普及推進委員会会議録

1. 日 時	平成 21 年 9 月 26 日（土） 13：15～14：30
2. 場 所	京都産業大学 5号館ミーティングルーム 1
3. 出席者	第三者評価委員・普及推進委員：夏目、原、西村 普及推進委員：佐合 オブザーバー：近畿経済産業局 内海 大学スタッフ：後藤、並松、中尾、木原、吉中、中川、林
4. 内 容	O/OCF-PBL2・3の成果報告会終了後、第三者評価委員会・普及推進委員会を開催した。 議題： I. 前期事業報告として、O/OCF-PBL2・3の実施状況と前期普及推進活動について報告を行った。 ・O/OCF-PBL2・3については活動記録に基づき報告を行い成果報告会の振り返りもあわせて行った。 ・前期の普及推進活動は、研究会の実施大のほか、京都商工会議所と共同開催した新入社員研修に社会人基礎力を育成する PBL 型研修の導入、京都経営者協会における人材育成トレーナー研修での活用についてなど報告 ・社会人向けプログラム学と学内の授業受講者から得た測定調査より内面的変化について報告 II. 後期の事業報告として、今後の授業、報告会、普及推進事業（ラジオ放送・授業公開・基礎力グランプリ参加）の活動予定の報告のほか、評価委員には事業評価のためのアンケート依頼について説明を行い、年度末に作成する報告書の協力依頼を行った。 以上の報告・説明事項を交え、評価委員会・普及推進委員から実施に向けてのアドバイスをいただきながら、意見交換を行い終了した。

第3回第三者評価委員会・普及推進委員会会議録

1. 日 時	平成 22 年 1 月 23 日（土） 12：45～15：00
--------	---------------------------------

2. 場 所	京都産業大学 5号館 5324 演習室
3. 出席者	第三者評価委員・普及推進委員：夏目、原、西村、岡野一 普及推進委員：佐合 オブザーバー：近畿経済産業局 内海・森 大学スタッフ：後藤、並松、中尾、木原、吉中、中川、林
4. 内 容	KBS ラジオ放送チームの報告会（放送企画案）に出席し、各委員から学生に向けアドバイスをを行ったあと、O/OCF-PBL1 の成果報告会にて最優秀チームの担当教員・学生と授業の取組み内容や得たものを意見交換。そのあと第三者評価委員会・普及推進委員会を開催した。 議題： I. 後期事業報告として、O/OCF-PBL1 の実施状況と後期普及推進活動について報告を行った。 ・ O/OCF-PBL1 の取組み概要と授業内容記録に基づき報告を行い成果報告会の振り返りもあわせて行った。 ・ 後期の普及推進活動は、研究会の実施のほか、日本能率協会と共同開催した「社会人基礎力養成セミナー」、京都府・京都市・京都商工会議所・大学コンソーシアム京都が推進する「京都未来を担う人づくり推進事業」における本学の社会人基礎力養成プログラムの実施についてなど報告した。 ・ 平成 22 年度シラバスにおける社会人基礎力の能力要素の記載については、全科目を対象としたシラバスの充実に向けて追加された「身につく力」の項目において、「社会で活かせる基本的な力」として能力要素を例示して、授業科目での広がり進展があったことを報告した。 II. 今後の事業予定として、最終報告会、普及推進事業（ラジオ放送・基礎力グランプリ参加等）のほか、評価委員には事業評価のためのアンケート依頼について説明を行い、年度末に作成する報告書の協力依頼を行った。 以上の報告・説明事項を交え、評価委員会・普及推進委員から実施に向けてのアドバイスをいただきながら、意見交換を行い終了した。

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動

1. 日 時	平成 22 年 2 月 20 日（土） 17：30～18：30
2. 場 所	大阪商工会議所 4 階 5 号館 403 会議室
3. 出席者	第三者評価委員・普及推進委員：夏目、原、西村、岡野一 オブザーバー：近畿経済産業局 内海、森 大学スタッフ：並松、若松、後藤、中尾、木原、吉中、中川、林
4. 内 容	議題：平成 21 年度の取組み事業として本日が最終となり、普及推進・評価委員会は最終となることを挨拶としてお伝えした後、配布資料に従って、これまで行った 21 年度の育成評価事業日程と普及推進・研究活動の概略を報告した。また、学生の受講、課題提供企業、京都商工会議所新入社員向けセミナーにおける人事担当者、京都経営者協会新入社員トレーナーセミナー参加者、日本能率協会参加者の各アンケート集計結果を紹介し、報告書掲載のための評価シートの作成について各委員に依頼した。 その後、これまでを振り返って、各委員から学生の成長、学びへの展開、財界の視点、評価の方法などについて意見をいただいた。 最後に、委員長から総括しながら今後も本学のキャリア形成支援プログラムの中心に置き、このプログラムを発展・充実させる計画を示し、各委員に感謝を述べた。

「平成 21 年度 体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」

第三者評価シート集計

実施日：2010 年 2 月 20 日（キャリア形成支援フォーラム）

回答数：評価委員 5 名

●回答結果

評価者	1. 育成事業（教育システム）について	2. 評価事業（育成の評価）について	3. 普及推進事業について	4. プログラム全体（育成・評価・普及）について（実施体制）
夏目 孝吉	よくできている	普通	よくできている	よくできている
原 正紀	よくできている	できている	できている	よくできている
西村 善和	できている	普通	よくできている	よくできている
岡野一 伸子	よくできている	できている	よくできている	よくできている
佐合 真	できている	普通	できている	よくできている

1. 育成事業（教育システム）について

■具体的に■

- 多彩な教育手法を導入し、全体として良く練られた教育システムである。チーム別授業と全体授業そして外部への発表などを融合させた機動的なプログラムといえる。プログラムが豊富なだけに時間不足の印象があったが、充実感はあったろう。学生、課題提供企業の双方が満足できる内容だったといえる。毎年のことだが、企業の選定に工夫があり、魅力のある企業が参加したのは、学生にとって良かった。
- 京都産業大学にはインターンシップやキャリア形成支援への取り組みのベースがあるので、社会人基礎力強化に取り組む位置づけが明確であり、教育システムはとても効果的なものに仕上がっている。産業界との強いパイプを生かしており、企業からの協力を十分に引き出しているのも、それも育成効果を高める要因になっている。企業から得ている課題もユニークで興味深いものが多く、学生のコミットメントを十分に引き出せている。これまで培ったナレッジをしっかりと蓄積して、協力企業の輪を広げることにより、さらに効果あるシステムを目指してもらいたい。

- ・コーオプ教員と選任の教職員スタッフとしっかりと連携をとりながら、授業を進めておられる点が大変評価できる。
O/OCF-PBL2・3 では、課題提供企業と教員スタッフとの間でしっかりと連携が取られており、教育効果をより高めようとする取り組みが伺えた。また、課題提供企業4社からは、それぞれ特徴のあるテーマが課題として課されており、チーム毎に学生一人ひとりの創造力や課題発見力を育む上で、大変効果的であったと思われる。O/OCF-PBL1 の受講生が行った学内でのアンケートやインタビューは、身近で取り組みやすい課題で、学生自身に学生生活を改めて考えさせ、アンケートなどの準備や実施、分析などを通して、社会人基礎力を身につけさせるという面で、有効であるように思われる。
- ・来年度より、キャリアガイダンスが大学の設置基準に位置づけられた。それに先んじて O/OCF-PBL は、キャリア形成支援教育を教養教育の中に一つの柱として組み込み実践するという先進的な取り組みである。また、その実践方法にも工夫がなされている。1年生から3年生までを対象とし、各段階に応じた教育目標を設定し、スパイラル方式で受講させ、企業と連携し課題提供頂き、その問題解決をグループで図るという実践型の学習形態をとっている。これは今後の大学におけるキャリア教育のひとつのモデルになりえるのではないか。また、産学連携のコーオプ教育への広がりを感じさせるものであり、更なる発展が期待できた。ただ、残念なのは教養教育に組み込まれているため、学生の専門性との関係が稀薄な点である。大学の学士力が問われる今ここに更なる工夫が必要なのではないか。
- ・企業人にとっては、未知の概念であったPBLを課題提供企業に十分な納得を得た上で参画を求められた点。学生達へのオリエンテーションは多分に力を注がれたことと推察します。各クラス毎の指導教員の貼り付けも手厚く、又、4クラス指導者の連携も見受けられ、一体となって取り組まれたと感じております。しかし、学内と一般社会の温度差も感じております。プレゼンがゴール地点とならざるを得ないのかも知れませんが、他に何かの形で成果が実感できる事を、企業・学生の相方が求めているようにも思います。

2. 評価事業（育成の評価）について

■具体的に■

- ・このプログラムは熱心な指導体制で臨んだプログラムだけに、もっと成果が出て欲しかった。いわゆる「一皮むける」というところまでにはいたっていなかったため、遺憾ながら3点（普通）とした。学生たちは、1年間の授業で成長したが、それを自分ではいかに評価するかについての分析力が不十分のように見える。相互に厳しく、やさしく、的確に評価する視点を育成することも必要だろう。学生達のアンケートでは、満足度は高いが、今後の大学生活とくに授業や将来への取り組みに結びついていないとの指摘が多かったのは、今後の課題だ。
- ・教育の効果を短い期間で明確化することは、とても難しいことだが、適性検査のフレームなどを参考にして、学生の内的な推移を把握しようとする試みは期待できる。コーチングやファシリテーションのスキルも活用することにより、外的な変化だけでなく内的な変化にもアプローチしている。現状の手法の中でできるだけ正確に評価しようとするれば、学生の自己評価、講師やファシリテータの評価、さらに協力企業からのコメントなどを組み合わせるような、多面的な評価が望ましいと思われる。評価のフレーム自体は社会人基礎力のフレームができているのだから、そのフレームを活用した形のもので確立すると、就職時などにも活用できるのではないか。
- ・マニュアル化された評価基準をもとに、定型化された評価シートを用いた評価が行われており、評価の平等性、合理性はしっかりと担保されていると思われる。ただ、社会人基礎力のフレームで定められている3分類と12の能力要素に対する発揮度合いは、学生一人ひとりの特性やチームの構成によっても異なってくると思われるので、それをいかに客観的に評価するかについて関心を持っていたが、そこまでは伺い知ることができなかった。学生に学期初めに目標を設定させ、学期の初めと期中、期末に教員と学生間で面談を行うと共に、周りの学生からの評価を反映させるなど、企業で行われている360度評価のような手法をとることができれば、学生の社会人基礎力の発揮度合いとチーム内での貢献度を、より客観的に評価できるようになるのではないかと思われる。
- ・学生の自己評価、教員・課題提供企業担当者等のモニタリングによる他者評価を事前・事中・事後に実施するというかなり、きめ細かな評価システムをくんでいる。又観察可能な行動事実に基づく評価に加え、それを支えている内面の精神機能(この点が脆弱になってきていることが問題である。)の測定も事前・事後に実施し変化を捉えようとしている。評価項目の3つの能力、12の能力要素の評価は実際に行うとなるとかなり難しい。さらに評価結果をフィードバックするとなると学生への影響も否めない。指導する上で、大切なのは、学生の主観的事実であることを考えれば、まず、自己評価の枠組みと活用を工夫する必要があるのではないか。あわせて、他者評価との照合せ・フィードバックの仕方についても学生への影響を考えると再検討する必要があるのではないかと思われる。さらに、本プログラムを実施するに当たり、学生をいかに指導するかだけでなく指導者自身が、指導者として評価者として自分自身と向き合うことの大切さを感じる。

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動

・プレゼンでの評価は全体評価の一側面と考えます。私達、学外のものが学生に接する機会が少なく、学校サイドの配慮による評価システムと考えますが、学生の生の声、例えばフリーなトークを聞かせて頂き、その後にプレゼンを受ける等も成長の過程を評価するのに有効かと考えます。フリーなトークは自ずとその期間に於る受講生の成長が反映されましょう。プレゼンの形を整えることに時間をかけている学生の姿が垣間見えるように思われます。

3. 普及推進事業について

■具体的に■

・大学としての企画力、運営、社会的影響力などへの情熱は、高く評価できる。社会人基礎力を基軸にしたキャリア教育の展開は、全国の大学から注目される存在になった。学内や京都にとどまらず、大阪、東京さらにはラジオ媒体を活用して社会人基礎力の重要性を啓発、実践している活動は、評価できる。

・活動の成果報告のイベント実施、判りやすい活動報告のツールの作成、経済団体とのタイアップによる企業向けのプログラム提供、マスコミなどへのアウトプットなどの施策を実行しており、普及推進に積極的な姿勢が見られる。放送局と連携した企画などは、普及促進に向けてのいい機会となっており、このような機会は学生にとって貴重な学習だけでなく、本プログラムの普及にも大きな効果が期待できる、一石二鳥のユニークな取り組みだ。とはいえ、まだまだ学内においても認知を促進させて、より多くの学生の参加を促していくことが求められるが、最も期待したいのは参加した学生が満足して、そのメリットを後輩達に伝えていく口コミによる効果ではないか。

・学内での教職員に対する勉強会から、学会などでの発表、成果報告会の開催など、普及推進への取り組みは、その質・量ともに大変充実していたものと思われる。また、地域の経済団体を巻き込んだ社会人基礎力の内容を盛り込んだ新入社員研修や新入社員育成担当者養成の取り組みは、企業の方に社会人基礎力の意義や、大学でのコーオプ教育の必要性を理解していただく上で、非常に意義のある活動であったと思われる。これらの参加企業の中から、近い将来、課題提供企業が生まれることを期待したい。

・学会での研究発表、フォーラムの開催、事例報告会への参加、ラジオなどメディアを活用しての情報発信等、学外への普及推進については目を見張るものがある。特に京都商工会議所での共催による「社会人基礎力養成セミナー」、京都経営者協会との共催による「社会人基礎力トレーナー養成セミナー」の開催は本プログラムの成果を産業界に問うものであり、画期的な試みである。また、「O/OCF-PBL 成果報告会」と題し、本プログラムの成果を一般に公開し、更なるネットワーク構築を模索するなど、関係者の方々の熱心でチャレンジングな姿勢が伺われる。

・学内に対しての普及推進については積極的に実践され、この講座の将来拡大ビジョンもお伺いしております。就職という現状の厳しい社会状況の中、学内の注目度も高い事と考えます。この厳しい状況はこの講座の学内普及には、追い風とは思いますが、受講生の成長を学内アピールするような学内メディアの活用による普及推進も一考かと感じました。学外への普及推進には成果物の公表と共に地道な学校サイドの取り組みに尽きるかと思います。学生達が自らの夢、姿で、この講座を通じたビフォー、アフターを示すと共に、企業と共に得た成果物の発表等も当該企業の広報誌(紙)等への掲出依頼も有効と考えます。

・社会人基礎力育成に関わる人材養成の重要性に着眼し、学内だけでなく、関西の経済圏にも徐々に普及を図ろうとしている姿勢は素晴らしい。

4. プログラム全体（育成・評価・普及）について（実施体制）

■具体的に■

・キャリアセンターを中心として実施されてきた状況を見るに、講師のクオリティ、教育システムの内容、評価の仕組み、企業との連携など、それぞれの完成度が高まり運営もスムーズで、全体的に充実感がある。大学としてのキャリア教育の体系や、その中での社会人基礎力の位置づけが明解であり、今後の自立的運営の取り組みの中で、さらに進化していくことが期待できる。これからの大学教育の重要な要素の一つとして、学生が卒業後に産業界で活躍して、充実したキャリアを築くことができる礎となる「社会人基礎力」の強化事例として、他大学の参考となるレベルだと思われる。

・キャリア教育研究開発センターを中心に、一拠点キャンパスの特性を存分に発揮し、学内リソースを有機的に活用しながら、教職員が一体となって、事業を推進しておられた点は素晴らしい。また、社会人基礎力を意識したシラバスの改定も進められ、学校全体をあげた実施体制には大変素晴らしいものがある。O/OCF-PBL2・3の受講生から選抜し、受講期間以外でラジオ番組を制作するという取り組みについても、より高い教育効果を導き出す為に、学生により多くの経験学習の場を与えようとする想いが感じられ、大変感銘を受けた。

・何より関係者の方々の熱心な取り組みに心を打たれる。①教養教育の中に一つの柱として位置づけ、全学的取り組みとしてキャリア教育研究開発センターが中心となり専任のスタッフを抱え指導にあたるという体制作り。②コーチングやファシリテーションといった新たな技法を用いての課題解決型のプログラム内容。③地元の企業や経済団体を巻き込んだの普及推進活動とプログラム全体として良く練られている。短期間にこれだけに纏め上げるのは大変な作業ではなかったかと思う。インターンシップ導入が学生の気付きを何とか繋げたいという熱い思いがあったからこそ、できたことではないだろうか。

・新入生～2年次・3年次へと繋がる育成システムの形成が試されるようになり、より一貫性を備えて来られました。部活以外では、上・下級生との会話も少なく、又、時勢柄バイトも、通学にも時間を費やす忙しい学生が多い中、2・3年次生合同のプログラムは評価します。成果発表についての評価は前述の通りですが、熱心な取り組みは指導教員の手厚さと共に、若い指導者の方々の熱意からも感じました。社会、企業の求める、4年制大卒者に求める素養としての講座として、眼前の事象への対応力と共に、卒業後に伸びしろを兼ね備えた人材育成の為、俯瞰的見える為に訓練等も必要と考えます。

5. 社会人基礎力の12の能力要素について効果があったと感じられるもの

■回答基準

大変良い	ある程度よい	全くない	不明
◎	○	×	—

●回答結果

回答企業	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力
夏目 孝吉	○	○	◎	◎	○	×	○
原 正紀	◎	◎	○	—	○	—	◎
西村 善和	◎	○	○	—	○	—	—
岡野一 伸子	○	○	○	◎	—	—	○
佐合 真	○	○	○	○	—	—	○

回答企業	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力
夏目 孝吉	○	◎	◎	◎	○
原 正紀	◎	◎	○	○	○
西村 善和	○	○	○	◎	○
岡野一 伸子	◎	◎	○	◎	○
佐合 真	◎	○	◎	◎	◎

6. 質問5に対して、社会人基礎力の能力要素で「◎大変よい・○ある程度よい」を回答した理由

・企業から与えられた課題を素直に受け止めるだけで、深く取り組むところがない点がいささか物足りない。なぜか、どのようなアプローチがあるか、若者らしい突っ張ったところや新鮮な発想が見られなかった。総じて問題意識が希薄の印象を受けた。学生と企業の意見の違い、学生のこだわり、誤解など、プロセスを分析して、それぞれのメンバーとの違いや合意点、論争や対立点などを示すと良かった。課題を解決することに熱中し、そのプロセスの大事さを失った面もあった。社会人基礎力形成の「見える化」を試みて欲しかった。

・学生にとってプロジェクト的な共同経験はあまりないので、「チームで働く力」の項目について、特に得るものが多かったと見られる。学生の話や聞く「仲間の大切さを知った」「協力することの価値を知った」というコメントが多かった。せっかく協力してくれた企業に対していい提案をしたいという気持ちが強く、そのためにはチームワークを発揮することが大切と実感したようだ。特にベースとなっているのが、自分からの「発信力」と、相手を理解する「傾聴力」であろう。多様性を受け入れる「柔軟性」も見受けられた。併せて一定のルールを守る「規律性」についても身についてきたようである。同時にチームワークを高めるには、自分から「主体性」を持って「働きかけ力」が重要で、それを身に付けるいい機会になったと思われる。そういった「前に踏み出す力」についてもいい影響が見られた。やはり身をもって体験することで、得るものは大きい。

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動

・与えられた課題に対して、チーム全体で取り組む中で、学生一人ひとりが主体性を持ちながら、規律を重んじ、それぞれの責任を果たそうという傾向が伺えた。とりわけ、報告会の直前のプレゼン資料を作成する段階では、チーム内のメンバー間で互いに働きかけあう力や、実行力、状況判断力という面で成長が見られたように思われる。また、その際のチーム内で生じた議論や意見対立を一つひとつ乗り越えていく過程で、傾聴力や柔軟性、ストレスコントロール力が身についたものと思われる。

・学生のプレゼンテーションの中ででてきたエピソードやディスカッションの中の言葉には、「チームワーク」に関する言葉が多い。例えば、相手の立場に立って考える、一人では何もできない、コミュニケーションが大切など。そこに注意が向いているのだろう。周りに気を遣いながら折り合いを付けてやっている。そのため「傾聴力」や「柔軟性」はあるが、「前に踏み出す力（アクション）」が弱いように思える。

・与えられた事案、事象について従順に処する気風が現代社会の一般的気風である中、受講生はこの風を自らの体で既に受け止めており、それが、この講座を通じても表れて来たように思います。チーム力は回を重ねるにつれて大きく前進したように思われます。又、前に踏み出す行動力もプレゼンという成果物作成の為に動き出していました。しかし、事案事案に対する切り口が多様化あるいは深化したという実感が乏しかったというのが実感です。若者らしい意外性ある発想、常識を理解した上で、疑問を持ち課題を見い出す創造性が物足りなく感じました。しかし、これは本当に難しいことでもあります。

7. 質問5に対して、社会人基礎力の能力要素で「×全くない・一不明」を回答した理由

・メンバー間でチームワークを取りながら、前に進んでいくところでは成果が感じられたが、考え抜く部分はまだまだ成果が見えてこない。課題自体は企業からの設定を待つ形式だが、課題設定からはじめることも効果的かもしれない。発想に関してはもっと創造的に取り組んで、思い切ったアイデアを出せるようになることを望みたいが、まだまだ通常の範囲でのアイデアしか見えてこない。このような取り組みが確立して、学内に知見が積み上げられれば、より創造的な結果が表れてくるのではないかな。まだアウトプットよりもプロセスが重要な時期であり、「課題発見力」や「創造力」の発揮は今後に期待したい。

・各企業から出された課題に対して、課題提供者の意図を汲みとり、アウトプットにつなげるというプロセスで、課題発見力や創造力が発揮されたか否かを伺い知ることができなかった。一点気がかりな点としては、学生の議論や発表の内容を聞いてみると、課題提供企業の方が学生に対して口にする「学生ならではの発想で」という言葉を、学生側が「学生レベルでの発想で良い」と誤って解釈しているのではないかとと思われることがあった。おそらく課題を提供される側としては、社会人では思いつかないような斬新な発想を期待されていると思われ、そのあたりで学生の意識との間にギャップを感じた。学生の皆さんには、自らの関心や興味の幅を広げ、自らの持つ殻を突き破るような議論を行ってもらえるよう期待したい。

・学生の課題への取り組みのプロセスが見えなかったため不明とさせていただきました。一つ気になる点は、評価懸念が強い為、周りの期待に沿おうとして頑張っている姿が見受けられることである。そのため小さくまとまりすぎている嫌いがある。

・異世代、例えば身近な存在である親、あるいは兄弟などとの意見交流等のコミュニケーションの不足を推察します。携帯やパソコンメールのコミュニケーションはどうしても同一属性の中のものに偏りがちです。社会全般の風潮ではありますが、普遍的な事象、あるいは真理、歴史などに立ち帰って物を見る、又、考える事の訓練も社会人基礎力の一環と考えます。原点を理解することから創造性は育つのも事実であります。疑問は発想の原点でもありましょう。その点から見て、創造力については不明と致しました。又、掘り下げて考えることがあまり試されておらないようにも感じ、計画力についても不明と致しました。

8. プログラム全体（育成・評価・普及推進等）についての提案

・活動の前段で主体性を引き出すことが重要。そのための仕掛けをいくつか用意することが良いと思われる。たとえばプログラムによって目指すべき効果・目標を自ら設定させて、宣言させるなど。そこで主体性を引き出さないと、やらされ感のある活動になってします。

・チームで行い、企業との連携も必要なので、多くの人と関わる機会を持つ。それだけに楽しく、興味深く取り組める工夫を凝らすと良い。それぞれグループ間で一種の競争心をあおるように、ゲーム感覚での情報交換が出来るとういのでは。

・テーマの設定は自主的に行うようにしてはどうだろうか。その方が課題発見力の強化につながり、学生のコミットメントも強くなる。企業との調整などの問題はあろうが、企業としてもメリットに繋がるのでは。

- ・受講生のアンケートを見ても満足度は高く、気付きも大変多いことが伺える。それも社会人基礎力を身につける上で、充実した育成カリキュラムが用意されていることと、教員及びスタッフの皆さんの努力の賜物であると思われる。今後受講生を増やしていかれる中で、教育の質を落とすことなく授業を行っていただくことをお願いしたい。
- ・よく練られたプログラムではあると思うが、次のステップとして、学生の専門性とリンクする形で問題解決型の実践的教育ができないかと思う。キャリア指導は今後、小学校から取り入れられるようになると思うが、大学で実施する意味を考えた時、より複雑化し、高度化する社会に対応する人材を育成する為に、専門性をより実践的に磨くということはずせない課題である。そのためには、産・学・官の連携が必要になるであろう。また、本プログラムは継続するとお聞きしているが、今後実際に本プログラムを受講した学生が社会に出てからどのような影響にあったか縦断的に追跡調査ができれば、その意義は大きい。
- ・1年次は、後期科目として、入門編講座でよいかと思います。現代の1年次生が自らをいかに客観的に捕らえているのか甚だ疑問であります。自分は何をしたくて大学に来たのかを考えさせる、謂わば社会の中の自分の存在を考えるきっかけを作ることが盛り込まれると一層の飛躍と将来に於る伸びしろが期待できると考えます。2・3年次合同での講座は有意義な事と考えます。課題提供企業への理解をより深めてもらい、具体性のある課題抽出も必要なことと考えます。成果物のゴールはプレゼンだけでなく、他の尺度も検討されては如何でしょう。

9. 意見・感想

- ・学長を先頭に社会人基礎力プログラムに取り組むことによって、大学内の雰囲気が年々刷新されているのを感じる。社会人基礎力は、まさに基礎である。大学としては、常に「高度人材」の育成を目標にこの成果を活用することが課題である。そうした次のプログラムも構想しながら、今回の成果を熟成させることになると思う。「就職の京産大」から「キャリア教育の京産大」への発展が社会人基礎力に取り組むことによって達成されつつある。今後は、育成された学生の活躍に期待したい。
- ・合宿によるチームビルディングは、効果大と思われるので初期、中期だけでなく後期にも実施すればさらに効果はあがっただろう。
- ・企業との更なる連携を図るコーオプ教育に、このプログラムがしっかりと繋がっていき、他大学に参考にされる取り組みとなることを大いに期待したい。企業との連携を高い次元で実現させるのであれば、かなり本格的に取り組まなければならない。そして企業側の積極的な関与を、極力引き出す必要がある。より多くの企業に、より深く関わってもらい、量・質双方のレベルアップが求められる。効果が目に見えて出てこない、企業側からも高く評価されないのではないだろうか。そのためにさらに教育効果を高めるような取り組みが望まれる。企業が大学に望むのは、何といっても産業界が求める人材の育成・輩出であり、それに応えるのが“京都産業大学”としての京都産業大学のミッションなのだから。
- ・社会人基礎力自体は、かつてはクラブやサークル活動など日常の大学生活の中で身につけていたものなのだと思います。自然に身につけていたようなものであるがゆえに、それを学生に体験学習を通じて身につけさせ、また、それに対して評価を行うという本事業の取り組みの難しさを改めて考えさせられると共に、それに取り組まれている貴校の教員・職員の皆さんの努力の大きさを痛感しております。学生が得た「気付き」を、いかに本来の専門教育での学びや将来の進路選択への「つなぎ」とするかが、本プログラムの最大の役割であろうと思います。社会人基礎力の育成を通じ、建学の精神で揚げておられる「将来の社会を担って立つ人材の育成」に努められることを期待したい。
- ・日本が日本としての国の形態を保っていられるかさえ危ぶまれる昨今、そういう中であって、明日の日本を託せる人材が一人でも多く輩出されることを願ってやみません。そのためには自分の能力を余すところなく発揮できて若者が一人でも多く育つこと。そのために何が出来たのか、それを今私達に突きつけられた課題だと思うのです。本プログラムはその第一歩ではなかったかと思います。
- ・自身、この O/OCF・PBL にご縁を得て二年目でしたが、着実に大きく充実の歩を進めておられることを実感致しました。社会人基礎力は教室の中だけで養われるものでないことは自明ですが、社会環境の変化は如何ともしがたく、家庭や部活、あるいは異世代間のコミュニケーションを奪っているのかもしれない。この講座を受けている学生達が、単に世を処する術としての社会人基礎力から、一歩先の社会人として普遍的に持って貰いたい幅広い社会人価値観にまで視野に入れた発想力、実践力、行動力を持つ人材に育ってゆく事を、願ってやみません。私自身も良い経験をさせていただき感謝しております。

(4) 成果報告フォーラムの開催

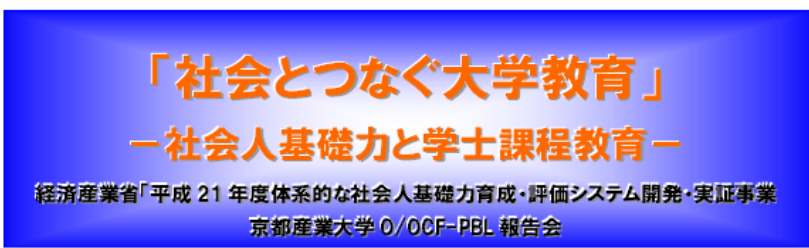
2月20日の大阪商工会議所にて、「社会とつなぐ大学教育－社会人基礎力と学士課程教育－」と題してプログラム全体の報告会を、広く大学・高等学校、企業に向けて開催した。

当日は他大学・高等学校、企業から約40人、本学関係者、受講学生も含め、100人近くに参加があった。



2010 キャリア形成支援フォーラムシリーズ





「社会とつなぐ大学教育」
－社会人基礎力と学士課程教育－
 経済産業省「平成21年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」
 京都産業大学 O/OCF-PBL 報告会

プログラム

【開会挨拶】14:00～ 並松 信久 (京都産業大学 副学長・キャリア教育研究開発センター運営委員・経済学部教授)

内海 美保 氏 (経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部 産業人材政策課長)

【基調講演】(45分間)

「社会とつなぐ大学教育」－社会人基礎力と学士課程教育－

川嶋 太津夫 氏 (神戸大学教授)

【事業報告】(30分間)

「社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業の取組み報告」

後藤 文彦 (京都産業大学 キャリア教育研究開発センター運営委員長・経営学部教授)

【休憩】

【O/OCF-PBL 授業成果報告】(20分間)

「大学生対象の日本茶の魅力体感型イベントの企画提案【㈱一保堂茶舗】」

O/OCF-PBL 代表学生によるプレゼンテーション

【学生ディスカッション】(50分間)

「受講学生による討論」

O/OCF-PBL 授業受講者・社会人基礎力グランプリ決勝大会出場学生

【総括】17:00～ 後藤 文彦 (京都産業大学 O/OCF-PBL 担当教員代表)

【開会挨拶】 若松 正志 (京都産業大学 キャリア教育研究開発センター長・文化学部教授)



京都産業大学 キャリア教育研究開発センター
 Center of Research & Development for Cooperative Education

0/OCF-PBL 報告会「社会とつなぐ大学教育」アンケート

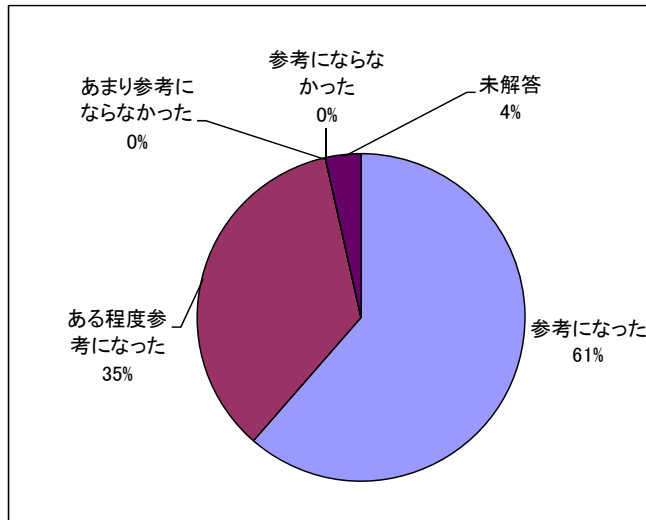
2010 年 2 月 20 日実施

大阪商工会議所

回答者数 57 名

■「社会とつなぐ大学教育」について参考になったか

参考になった	ある程度参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	未解答	合計
35	20	0	0	2	57



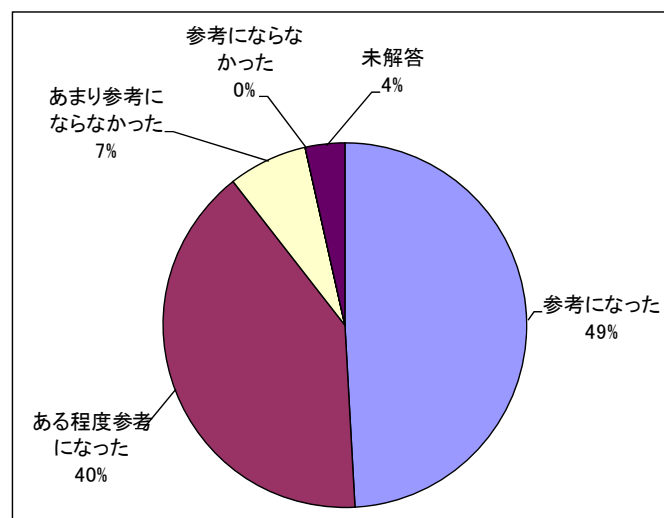
【その理由】

- ・普段から教育現場で感じていることや、今後の教育のあり方について、きちんと整理されており非常に参考になった。
- ・大学の状況であるとか、キャリア教育や専門教育との関連、学生の状況、今後のあり方等、わかりやすくご説明頂き明確でした。
- ・「つなぐ」が気付きに次ぐ第2のキーワード。「ライブラリアン」「ユニバーサル化時代の学生」についての視点
- ・「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「体験」「つなぐ」とは、コア・コンピタンスと一致することに改めて気付いた。
- ・ライブラリアンの概念。初年次教育・キャリア教育・ジェネリックスキルの定義づけについて参考となるところがあった。
- ・大学で求められている教育として、社会人基礎力が挙げられる意味が良くわかりました。
- ・理論的背景、データの裏づけなど、よく整理されていて、大枠の理解に役立った。
- ・大学で学ぶ「知識」というものの意味が変化しているということについて、良く分かりました。
- ・学士に求められるコンピタンス(時)、(今)の空間図の概念が特に参考になりました。
- ・コンピタンスの考え方がとても参考になりました。社会人基礎力の考え方を改めて勉強できました。
- ・大学教育が必要とする課題が発見できました。学生教育に活かしていきたいと思います。
- ・実業高校として大学を高校と置き換えて考え、また社会・大学と実業高校をどのようにつなぐことができるのかについて考え、頭の整理をしながらバラバラであった考えを体系立てていく事が出来たと思います。
- ・教育のグローバリゼーションに対応できる日本の大学が一つでも多く出てくることを期待します。
- ・学生中心の大学ではあるが、学校での教員の考え方が社会から離れている。即戦力人間を求めていると言われるが、社会に出て3年は時間が掛かることを理解して欲しい。
- ・大学教育の在り方→主張にわたる職業に就ける能力→社会人基礎力、大学全入時代こそ重要に思う。
- ・大学の教授も「教育」に対して考え、取り組まれていることを再認識しました。
- ・知識社会というキーワードがゼミでの学習内容とリンクしていて印象的でした！
- ・企業様の質問などで聞いていて良かったと思いました。
- ・教員と学生の関係が知れ、面白かった。
- ・他国との比較が面白かった
- ・社会人基礎力は、社会に出ると大変必要ということを今日の報告会を通して分かりました。

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動

■「社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業の取組み報告」について参考になったか

参考になった	ある程度参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	未解答	合計
28	23	4	0	2	57

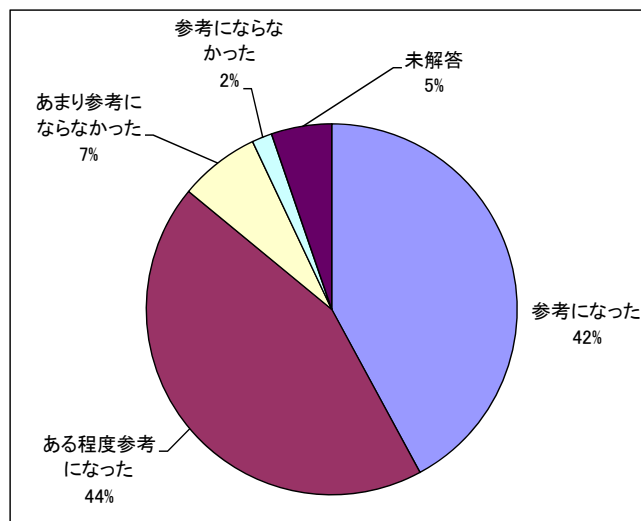


【その理由】

- ・京都産業大学での社会人基礎力育成に向けた取組み、今後の方向性について体系的に理解することが出来ました。
- ・全体的な説明としては理解しやすいが・・・話の内容が外部向けの印象が強い。導入のプロセス(カリキュラム実現まで)、各セッションの連携(事務サイド)、現在大学全体で O/OCF-PBL に対する定義づけ(価値観の共有)や問題意識の共有はどう行なっているのかも聞きたい。(特に各部署の職員間や教員・職員間)
- ・本事業の成り立ち、今後の展開がわかりよかった。
- ・現段階での課題(内面的評価成長の伸び悩み)も含めて非常に率直に開示して頂いた点が参考になった。パワーポイント・スライドコピーが小さく、文字が分かりづらいものがあったので、ご配慮頂ければ幸いです。
- ・学生の実態に合わせてプログラムを考えるという、当たり前でありながらなかなか出来ていないことをされていて素晴らしいと思います。
- ・後藤先生の、インターンシップ→気づきの獲得。PBL→気づき+つながりの獲得、のご説明に大変納得しました。
- ・インターンシップだけでなく、気づきからさらに「つながる」力の必要性を感じました。
- ・大学として「自ら学ぶ力をつけてほしい」「気づきやつながり」から学んで欲しいという思いに対して、とても良い取組みだと思う。
- ・机上の教育ではなく、生きた教育としてのコーオプ教育の取組み、とても良いと思います。どんどん広がって欲しいです。大変興味のある事業報告です。貴校の本気度が伝わってきます。
- ・コーオプ教育には意味が感じられるので、大きなテーマと考えます。
- ・インターンシップも同様プログラムに参加する学生は、就活に対しても積極的であり、参加しない(キャリアセンター等に相談に来ない)学生に対してどうするか。
- ・改めて PBL、そして自分が置かれている立場を見直すことができました。
- ・これからのビジョンを明示して欲しい。より具体的なプログラムと能力の結びつきを示して欲しい。

■「PBL 授業成果報告」【㈱一保堂茶舗】学生プレゼンについて参考になったか

参考になった	ある程度参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	未解答	合計
24	25	4	1	3	57



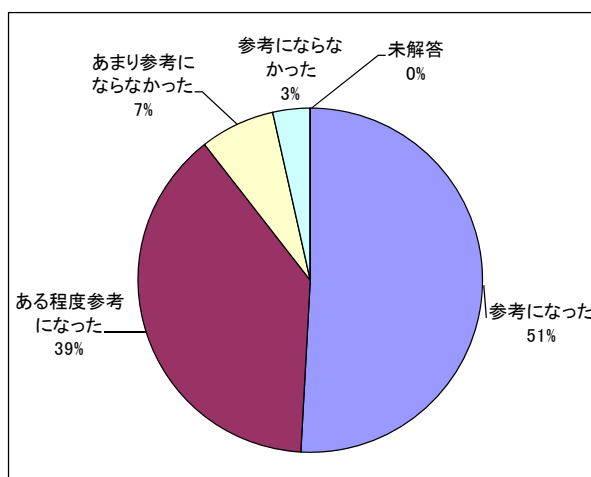
【その理由】

- ・チームの取組みや学生自身の成長について、非常にわかりやすいお話でした。9 月に聞いた発表とは全く完成度が違い(大変良くなっていました)この間の学生の皆さんの努力を感じることが出来ました。
- ・準備に費やした時間や、目標設定の過程など、詳しく聞きたかった。
- ・課題提供企業はもっと「学生の生の声」を知りたかったのではないのでしょうか。マーケットリサーチ力・プレゼン力などの向上策も必要かと思われます。
- ・「普段飲む日本茶とは違う一保堂の日本茶に対する魅力」または、「他の飲料とは違う日本茶自身の魅力」等どんな魅力を感じたかが伝わればもっと面白かったと思います。頑張ってください。
- ・PBL によって学生が自発的にどの程度考え、動けるのかがよく分かりました。
- ・考えて行動し、意見が通らなかつたら再検討するというレベルの高さを感じました。
- ・もう少し型破りで、学生でしか考えられないイベントができれば、もっと良かったと思います。その苦勞が発表の中にあまり出ていなかったように思います。
- ・ドラマのようなプレゼン、とても好みます。PBL のアウトカムが理解できました。
- ・学生が社会への接点を持つことが人生を考える機会となったと考えるがどこまで必要か疑問がある。結果何人にお茶について認知させられたかの報告が無かった。
- ・企業の「こだわり」と感じ取れたのではないかと思う。それが 290 年の歴史であり、ものを作り、売ることと含め PR(イベント)の大切さを理解していた。
- ・最後に聴いた発表との変化が、どのような理由によるものか、何を伝えるもののためだったのかを考えました。
- ・具体性が欠如していたように思われる。常に欠点を改善しようと言う姿勢がよかった。

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動

■「学生ディスカッション」について参考になったか

参考になった	ある程度参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	未解答	合計
29	22	4	2	0	57



【その理由】

- ・学年・学部をこえた学生のつながりがありそれが一つの方向に向いて議論・行動するのは新しい試みでうまくいけば大変面白い。
- ・学生が多くの人を前にしてディスカッションするのは、とてもいい機会だし、学生もしっかりしていた。ただ、議論する内容については項目だけでも、あらかじめ提示しておいた方がよいのでは。
- ・大学の専門教育との関連の中で行なっていただき、その方面からの報告や討論があれば、もっと良かったと思います。
- ・学生主体で授業での取組みや自身の成長について話を聞けて非常に良かったです。ただ、聞く側に立てば、進行はコープ教員の方にしていただいた方が、話がより整理されたものになったのではないかと思います。
- ・学年が異なる学生によるコミュニケーションが他者理解につながると感じた。
- ・パネルディスカッションとは事前の「シナリオづくり」が大切だと思います。「日常から気付く」というのはその通りだと思います。
- ・困難を乗り越えて、気付き・つながりを通して成長されたのだということが分かり、当事業の意義を知りました。
- ・フロアからの質問を最初から組み込んだ形にした方が、学生が発言しやすかったのではないかと感じた。この状況設定で全員よく発言し、進行上自分の果たすべき役割をきちんと果たせていたのは素晴らしいと敬服した。
- ・学年の違いによる意識の違い。企業と学生による意識の違い。それらをどう克服しようとしたのかがよく分かりました。
- ・学生皆さんの生の声を聞けてよかった。特に、受身になりやすい中で前に踏み出す力が大切だという声(気づき)が良かった。
- ・学生の視点から感想・意見が良くわかり、参考になりました。
- ・学生が感じている生の声が聞けて非常に参考になりました。社会人基礎力が日常につながっているということを本学の学生にも伝えていきたいと思います。
- ・合宿など、大学生ならではの活動方法の話もあり、生の話が聞けてよかった。
- ・大学が狙いとしている能力の開発や、気づきに対して、学生がそれにしっかりと学び、効果をあげていると感じた。
- ・人と人がつながっていくことで、1人では成し得ないものが出来上がることを実感しました。
- ・社会人基礎力グランプリ西日本予選も見ましたので、全体像が見えております。
- ・それぞれの学生が多く学びや「気づき」があったことを発表されていた。このことをしっかり引続き忘れずにしたいと思います。
- ・形式的な発表になっていると思う。気づきとつながりの具体例が良かったです。
- ・話し方、伝え方についてどのように発言すればよいかを考えた上で、参考になる点がありました。
- ・本音が聞けた。
- ・モット本音で語れる雰囲気なら、もっとおもしろくなったと思います。
- ・取り組んでいる学生の本音が見えた気がする。全体を見渡す能力と積極性がもう少し出ればよし。
- ・先輩たちの話も聴けて、来年からどうして活動していくか、目標がもててよかった。

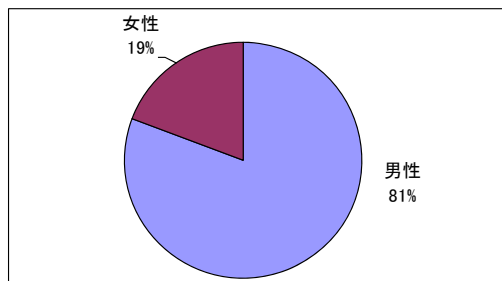
その他

■プログラム全体を通しての意見・感想

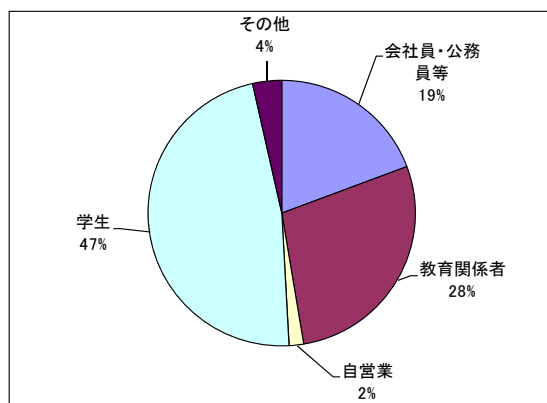
- ・「社会とつなぐ大学教育」の大体の様相がある程度、理解できてよかったです。また、この教育は今後の大学教育の変革を促す面があると思います。
- ・地域人材を育成する上での「コーオプ教育推進ネットワーク」の設立は、大変意義のあるお取り組みだと思います。
- ・今回は学生視点による発表があり、非常に良かったと思いました。“社会人基礎力は日常のなかにある”を言葉にできたことは、この教育の成功の一つだと思います。
- ・もっと学生の声を聞きたかった。
- ・PBL 授業の相手方、企業の声をもっと聞きたかった。企業側が何故この活動に共鳴するのかが知りたい。
- ・「社会とつなぐ大学教育」の必要性は、十分に感じています。企業の「本気度」と学生の「学びレベル」の「温度差」をどう埋め合わせ、フュージョンしていくかが今後問われていくと思います。
- ・直接職員の方から色々なお話が聞ければと感じました。貴大学の先進的な取り組みについて、様々な面で参考となるものを感じています。3月16日にも可能な限り参加させていただきます。
- ・予想以上に学生の能力が高いので、成果発表会として非常に有効だったと思う。学生と参加者との小グループ討議があっても面白いと思う。
- ・このPBLを受講した学生さんが、どこに向かおうとしているのかを明らかにして発表すると興味深いのではないのでしょうか？例えば、学部教育を深める、バイトなど課外へ向かう、などの特に学部教育との関連が気になります。
- ・学生が参加するプログラム、しかも一定の時間を確保しているプログラムは、PBL に一層リアリティーを持たせることが出来、良かったと思います。
- ・知識を得るだけの大学ではなく、社会に通じる人間育成を目指したいと思いました。
- ・大変貴重な話が伺えました。ありがとうございました。自主的にキビキビ動く学生を見て、社会人基礎力が本当についているなと思いました。
- ・大学の主人公である学生が出演することは、とても良い考えに思います。当事者がどう思うのか、視点は大切に考えます。
- ・社会人基礎力は人間力であって、人が好きであることが必要であり、お互いに思いやることではないかと考えます。
- ・今後の課題も話されていたので、将来をしっかりと見据えていると感じました。

■参加者 男女比

男性	女性	合計
46	11	57



会社員・公務員等	教育関係者	自営業	学生	その他	合計
11	16	1	27	2	57



(5) ラジオ放送による発信

地元の放送会社(株)京都放送の協力を得て、京都産業大学の魅力や PBL の取り組みなどを幅広く広報するべく、30 分のラジオ番組を製作する「KBS 京都プロジェクト」を立ち上げた。

① KBS 京都プロジェクト参加者

プロジェクトメンバーとして、モリタ製作所クラスから 2 名、タキイ種苗クラスから 4 名、一保堂茶舗クラスから 2 名、京都産業大学クラスから 2 名の計 10 名が参加した。

(【参加者構成】 2 年生：9 名、3 年生：1 名 / 男子：7 名、女子 3 名)

② KBS 京都プロジェクトの流れ

プロジェクトは、11 月 12 日(木)に立ち上げ、2 月 16 日(火)に収録し、2 月 28 日(日) 16:45~17:15 で放送するという流れで行った。その間、(株)京都放送に 3 度、事前打ち合わせで訪問し、検討を重ねた。また、1 月 23 日(土)の PBL 最終報告会では、第三者評価委員の皆様の前でプレゼンテーションを行い、アドバイスをいただいた。

③ 番組の広報について

2 月 16 日(火)の収録後、2 月 28 日(日)の放送までの約 2 週間をかけて、番組の広報を行った

- ・大学内電子掲示板 POST に掲載、PBL のメーリングリストに流す
- ・京都駅、四条河原町、木屋町などでビラ配り
- ・ポスターを掲示(バイト先、シャトルバスの中、学内掲示版など)
- ・各自の mixi で宣伝など

④ 番組内容について

- ・番組名：『京産の学ラジ』
- ・放送日時：2010 年 2 月 28 日(日) 16:45~17:15 (30 分間番組)
- ・内容：放送内容は、大学に訪問して来られた KBS 京都のアナウンサーの方に、大学内のいろんな場所で、PBL 参加学生が話をする形式で実施した。
 - ①冒頭、②オープニング、③学生センターでのプレゼンテーション、
 - ④アイランドカフェでの打ち上げ風景、⑤教室でのスピーチ、⑥エンディング



(6) 地域経済団体と連携した展開

① 京都経営者協会

平成 21 年 9 月 15 日開催(於 京都テルサ 視聴覚研修室)

新入社員育成トレーナー養成セミナーアンケート

受講者: 30 名 回答者: 30 名

1. セミナーの内容について

- | | | | |
|---------|-----------|--------------|--|
| ① | 良かった | 27 名 (90.0%) | |
| ② | どちらともいえない | 3 名 | |
| ③ | 良くなかった | 0 名 | |

a. 良かった点(一部のみ掲載)

- * 大学の取組みがよく分かった、コーチングについてよく分かった、興味を持っていた図解手法の体験ができたこと。
- * 午後からのコーチング・ファシリテーションは自ら体験することができたことは自分にとってプラスになった。
- * ゆとり教育世代の人たちへの対応。
- * データを通し現在の学生、新人の現状、問題点が良く理解できた。また、若い社員に対しどう対処していけばよい導きができるのかのヒントがつかめた。
- * 育成についてのポイントに気がつく事、教わることができました。自分では気がつかない点も多く勉強になりました。
- * ゆとり教育世代のことがわかったこと。コーチングとファシリテーション。
- * 人事担当者同士で意見交換ができてよかった。
- * ファシリテーションの意味を知ることができました。マインドマップはとても楽しいということを体感できました。育成には『根気』が要るということを学びました。
- * データ的な研修内容に独自性が感じられた。午後のグループワークで、前向きな人々と意見交換できたことは興味深かった。
- * 期待していた以上のものが得られたこと。
- * 実際に体験できた点。他社の方と情報交換ができた点。
- * 新入社員のことがよくわかって参考になりました。
- * 体験型のセミナーでセミナーを受ける側の立場から参加できたため。
- * 具体的に新入社員と接し、教えていけばよいのかというポイントが分かった。グループワークも新入社員研修の参考になりました。

b. 良くなかった点(一部のみ掲載)

- * ファシリテーションの理解があまりできなかったので活用できるかどうかは疑問。
- * 午前中は専門用語が多く分かりにくかった。
- * グループでファシリテーターを選んで話をすすめて下さいと言われた時、初対面の方とどのように合意形成をすればよいか悩みました。気分を悪くされた方がいらっしやらないか心配です。
- * ディスカッションの一枚が少し短いように思いました。
- * 製造業にはなかなか取り入れが難しい部分を感じられる。

2. セミナーの時間について

- | | | | |
|----------------|----------------|--------------|--|
| ① | 長い | 0 名 | |
| ② | やや長い | 14 名 (46.7%) | |
| ③ | ちょうど良い | 12 名 | |
| (40.0%) | | | |
| ④ | やや短い | 0 名 | |
| ⑤ | もう少し時間をかけて聞きたい | 3 名 | |
| 記入なし 1 名 | | | |

3-1. 今回のセミナーの中で扱ったファシリテーションやマインドマップに関するスキルについて

- | | | | |
|----------------|-------------------------|--------------|--|
| ① | 自身でスキルを身につけ自社の研修などで活用した | 28 名 (93.3%) | |
| ② | 今のところ活用するつもりはない | 1 名 | |
| 記入なし 1 名 | | | |

3-2. 今後、ファシリテーションやマインドマップのスキルアップを行うセミナーがあれば参加をされますか

- | | | | |
|----------------|--------------|--------------|--|
| ① | ぜひ、参加したい。 | 10 名 (33.3%) | |
| ② | 参加を検討する | 19 名 (63.3%) | |
| ③ | 特に参加するつもりはない | 0 名 | |
| 記入なし 1 名 | | | |

4. 若年者地域連携事業について

- | | | | |
|---------|-----------------|--------------|--|
| ① | 知っているし利用している | 6 名 (20.0%) | |
| ② | 知っているが利用したことはない | 13 名 (43.3%) | |
| ③ | 今回初めて知った | 10 名 | |

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動

(33.3%)

記入なし 1 名

5. その他意見

- * 採用については、マッチング方法に苦労しています。本日は大変勉強になりました。
- * 中小企業で社員教育をどう実践しているか、どんな成果がでているかを知りたいので、ケーススタディ、意見交換、研究会のような形式で学べたらと思います。
- * 就職したい人と採用したい人との『壁』というのをどのように乗り越えていくべきか考えていかなければならないと感じた。

② 京都商工会議所

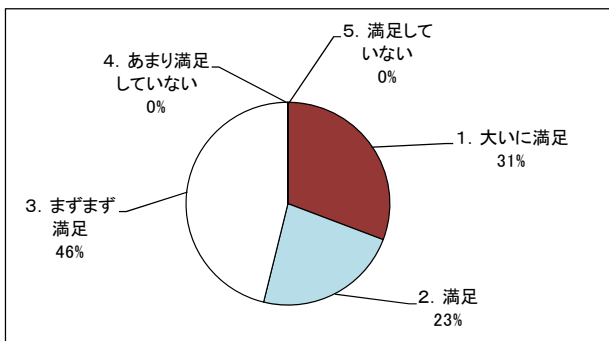
新入社員向けにセミナー（講座）最終アンケート（企業担当者回答）

2009-6-23 実施 於：京都商工会議所

受講者：21 名 回答：13 名

○本セミナー全体への感想について。

1. 大いに満足	2. 満足	3. まずまず満足	4. あまり満足していない	5. 満足していない
4名	3名	6名	0名	0名

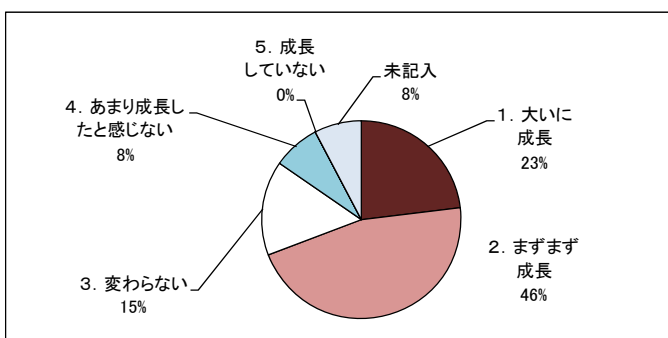


【ご意見・ご感想】（一部のみ掲載）

- ・異業種との交流、世の中を見る大変良い機会だと思います。一年毎で3年程行われ卒業生が新入社員に接するような仕組みになると良いと思いました。又、今年の卒業生が来年もう一度体験するのも良いと思います。
- ・異業種の交流を新入社員が体験でき、また、オリジナルメソッドを使ったプログラムで一つのことをやり遂げたことで達成感を味わえたと思う。
- ・異業種交流の下、オリジナルメソッドを用いて行ったセミナーであり、新入社員にとっては、様々な体験や交流が深まったと思う。
- ・社会人になった早い段階で、社会人基礎力についての研修を受けることは良いと思う。異業種の方との交流も良い経験となったのではないかな。
- ・新しい試みなので、結果を検証しながら、今後の展開に期待したい。
- ・講座での取組（課題等）の職場へのフィールドが不明確

○従来の新入社員に比べて、本セミナーを受講した新入社員の成長振りは如何ですか。 （感覚的で結構です）

1. 大いに成長	2. まずまず成長	3. 変わらない	4. あまり成長したと感ない	5. 成長していない
3名	6名	2名	1名	0名
未記入				
1名				

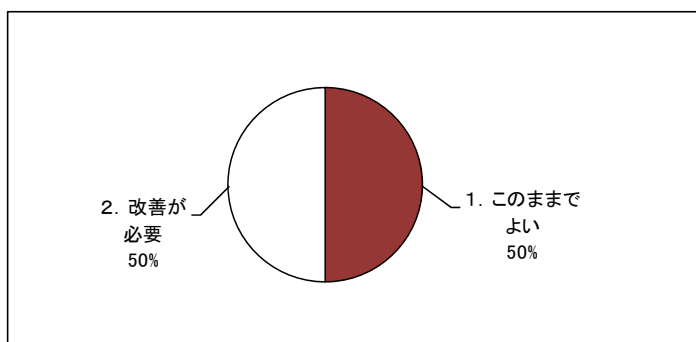


【ご意見・ご感想（成長観に関して）】

- ・各個人の絶対評価をしようとは思いますが、3人いるので、成長している幅の違いは感じています。
- ・モチベーションが上がったように感じます。
- ・情報収集や課題発見において成長を感じた。今後の業務に期待したい。
- ・設定された課題を解決する為に上司や先輩職員から情報収集したり、作成したパワーポイントを職場の職員に見せ、意見を聴取する等、コミュニケーションを図ろうとする姿勢がより成長したと思います。
- ・課題発見力や状況把握力に特段の成長を感じた。また、職場ではまだ控えめなところが気になっていたが、セミナー内では活発な言動があり安心した。
- ・4回の研修で長期にわたるため成長振りが研修によるものか、業務内OJTによるものか区別が付きにくい。若いうちに様々な経験を経ることが成長に繋がるのでOJTのみよりは成長したと思われる。大いにというほど顕著なものではないが。

○本セミナーに対して改善が必要と感じられる事項がありますればご記入ください。

1. このままでよい	2. 改善が必要
6名	6名

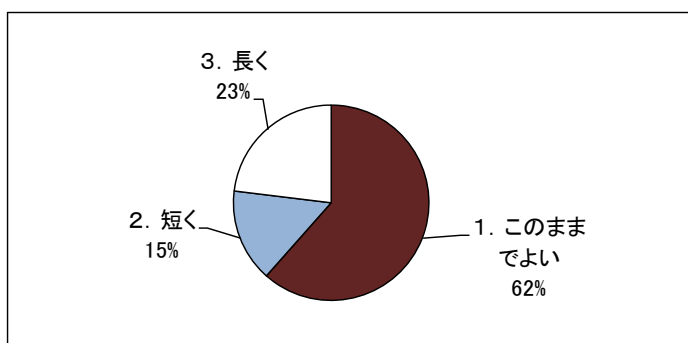


【改善が必要とされる事項へのご意見（内容面）】

- ・課題設定についての出所。本人達が考えたものをベースに、上司が考えていくのはどうでしょうか。当人達の視点や問題意識にも触れることが出来ると思います。
- ・本セミナーは十分である。出来れば、半年後・3年後に自分の成長を確認できる、振り返りとパワーアップのセミナーを設定頂き、体系的な社会人基礎力養成を目指して頂きたい。
- ・本セミナーは十分である。セミナーの継続性について、本セミナー受講生をファシリテーターや講師として活用することを検討していただきたい。本セミナーの拡大版として3年目、5年目社員向けセミナーを開発し、体系的な社会人基礎力養成セミナーを目指して頂きたい。
- ・個人毎で月の課題に取り組む為、グループワーク研修としての成果が合ったのかが不明。ある程度グループで同一課題に取り組む方が良いのではないかと。
- ・講座参加前に行う「評価」は、配属されて間がないことから正確に評価することは、困難。実施時期を一考する必要性を感じた。

○開催日数について。

1. このままでよい	2. 短く	3. 長く
8名	2名	3名



【ご意見（時期も踏まえて）】

- ・4・5月は年度初めの多忙な時期にあたる為十分な指導をする時間が取れにくいので、6月スタートの2ヶ月とするか、4～7月の3ヶ月の設定を希望します。
- ・時期、期間ともに適当だと思います。鉄は熱いうちに打てとありますが、あまり時期を遅らせない方が良いと思います。
- ・少しセミナーとセミナーの間が長いような気がする。4日間は適当である。

○本セミナーに取り入れてほしいプログラム（スキル系も）

- ・同じチームの人からの評価において聞いてみたいです。
- ・一つの報告書として仕上げるなど文章力も含めて行っていただきたい。
- ・プログラムではないが、プレゼンテーションだけでなく文章にまとめる力を見につけさせる為にも、最終レポートを参加者から提出させ、報告書を作成していただきたい。
- ・プレゼンテーションのノウハウについては取り入れても良いのではないかな。

③ 日本能率協会

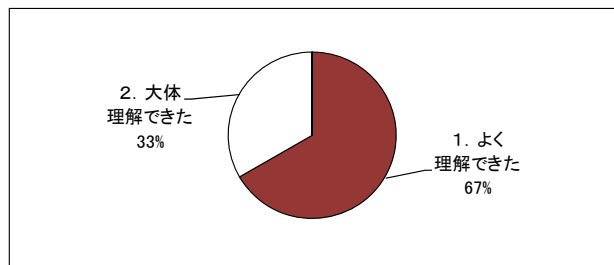
京都産業大学 社会人基礎力研究会 アンケート

2009-11-24 実施 於：京都産業大学
受講者：12名 回答：12名

■各プログラムに関しましてお伺いします。

①「京都産業大学におけるキャリア教育に関する全体像の紹介」の内容について

1. よく理解できた	2. 大体理解できた	3. あまり理解できない	4. 理解できない
8名	4名	0名	0名

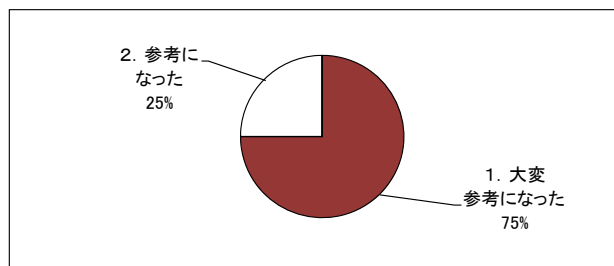


【自由記述欄】

・全体像を理解しやすかった。

②「社会人基礎力育成の具体的な取組み紹介」の内容について

1. 大変参考になった	2. 参考になった	3. 普通	4. 参考にならなかった
9名	3名	0名	0名

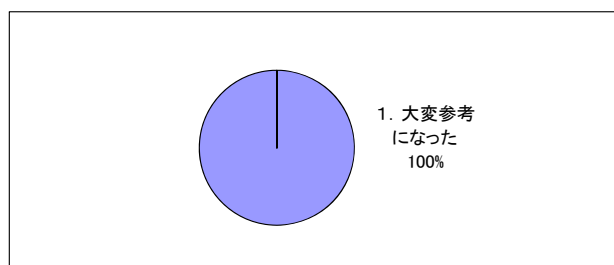


【自由記述欄】

・新しい情報を沢山得ることができた。

③「社会人基礎力育成の教育メソッド紹介と授業参観」

1. 大変参考になった	2. 参考になった	3. 普通	4. 参考にならなかった
12名	0名	0名	0名



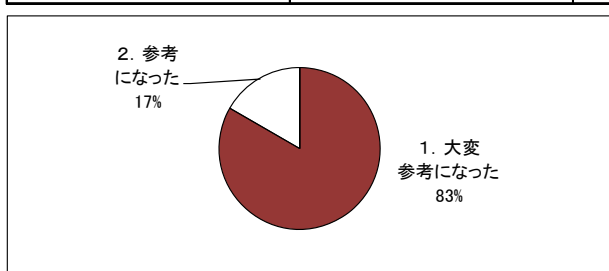
7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動

【自由記述欄】

- ・学生の主体的な取り組み方を観ることができて参考になった。

④「学生による成果発表」

1. 大変参考になった	2. 参考になった	3. 普通	4. 参考にならなかった
10名	2名	0名	0名

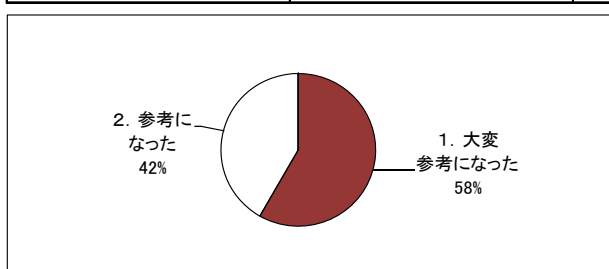


【自由記述欄】

- ・チーム内がうまくまとまらなかったときの解決に関する学生の対応はよかったと思います。
- ・単位認定してほしくないという学生の意見に新鮮さを感じた。
- ・学生の意識の高さ。

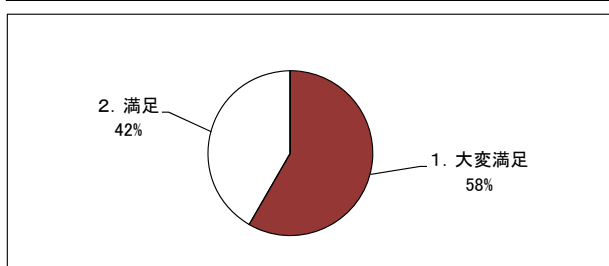
⑤「社会人基礎力事業に取り組むことの意義と現状の課題」

1. 大変参考になった	2. 参考になった	3. 普通	4. 参考にならなかった
7名	5名	0名	0名



■全体を通じての感想はいかがでしたか？

1. 大変満足	2. 満足	3. 普通	4. 満足できなかった
7名	5名	0名	0名



■その他ご意見・ご感想などがございましたらお聞かせください。

- ・今後は是非勉強させてください！！
- ・貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
- ・ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。
- ・プログラムの単位化の是非、評価の簡素化、プログラム参加チームの人数、指導教員のかかわり方のさじ加減、学生の本音も聞けて大変参考になりました。

7. 社会人基礎力育成評価システムの普及・推進活動